

**製品名: CD319 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM82040**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	37.4kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CD319
別名	SLAMF7; 19A; CS1; CRACC
遺伝子 ID	57823.0
SwissProt ID	Q9NQ25
免疫原	大腸菌で発現したヒト CD319 (AA: 追加 23-226) の精製された組み換え断片。

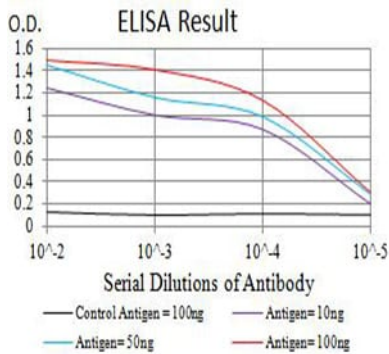
**背景**

シグナル伝達リンパ球活性化分子 (SLAM) ファミリーの自己リガンド受容体。同種または異種の細胞間相互作用によって活性化される SLAM 受容体は、多様な免疫細胞の活性化と分化を調節し、自然免疫応答と獲得免疫応答の両方の調節と相互連携に関与する。そ

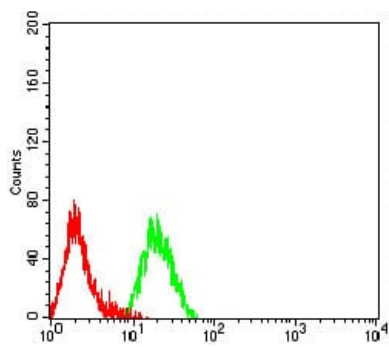
の活性は、細胞質内の小さなアダプタータンパク質である SH2D1A/SAP および / または SH2D1B/EAT-2 の有無によって制御される。アイソフォーム 1 は、SH2D1A 非依存性の細胞外シグナル調節性 ERK 介在経路を介して NK 細胞の活性化を媒介する (PubMed:11698418) 。リン酸化 SH2D1B に依存するメカニズムによって NK 細胞の機能を正に制御する。下流のシグナル伝達には、PLCG1、PLCG2、および PI3K が関与する (PubMed:16339536) 。NK 細胞と標的細胞間の異型相互作用に加え、NK 細胞間の同型相互作用も活性化に寄与する可能性がある。しかしながら、SH2D1B が存在しない場合には NK 細胞の機能を阻害する。T 細胞においても阻害作用を示す (類似性に基づく) 。リンパ球接着に関与する可能性がある (PubMed:11802771) 。LPS 活性化単球においては、炎症性サイトカインの産生を抑制的に制御する (PubMed:23695528) 。アイソフォーム 3 は NK 細胞の活性化を媒介しない。

## 研究分野

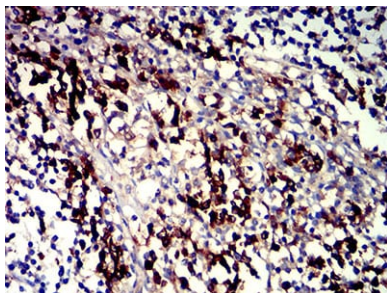
## 画像データ



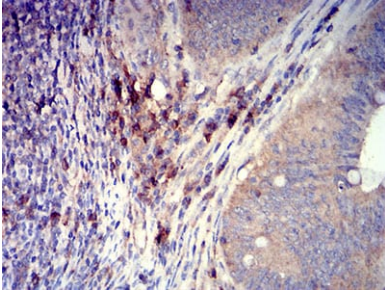
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CD319 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Raji 細胞のフローサイトメトリー分析。



DAB 染色による CD319 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。



DAB 染色による CD319 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。